

順調です 大谷夏いちご

生産企業が市長訪問

宇都宮

【宇都宮】大谷地区で夏から秋にかけて収穫する「大谷夏いちご」を生産する企業3社が2日、市役所を訪れ佐藤栄一市長に今シーズンの抱負を語った。

訪れたのは、ファーマーズ・フォレストの松本謙社長(51)、シーデビッドジャパンの田村篤史社長(40)、小平興業の石黒靖規社長(56)。

イチゴは暑さに弱いが、と太鼓判を押した。

市都市魅力創造課大谷振興室によると、大谷夏いちごの生産は2015年度に開始。18年度は栽培面積57ア、収量14・2トになる見込みで、それぞれ15年度の約10倍になるといふ。市内の洋菓子店や沖縄のリゾートホテルで使用される。

(藤田りか)



今シーズンの大谷夏いちごの生育状況について佐藤市長(中央)に語る生産企業の社長ら